



銀杏《愛校 自主自律》

◎“まごころ”があらわれる姿とは…

本年度1学期の始業式。私は、全校生に2つの問いを投げかけました。

◎ 宮内中学校の強み、ストロングポイントは、何か

◎ 皆さん自身の強みは何か、一人一人のストロングポイントは何か 【全校生によるスマイル宮中】



この一年の間に生徒や教職員と学校生活を送る中で、宮中の強みの一つは、「生徒一人一人だ。」という思いに至り、折に触れ言葉にしてきました。私が、そう思った理由の一つは、生徒会活動です。栗野一颯 生徒会長と執行部の生徒を中心に、教職員と一緒に、よりよい学校づくりに取り組んできました。

本年度の生徒会スローガンは、『まごころ』です。いくつかのまごころエピソードを、集会や学校だよりで、紹介してきました。生徒は、宮中生の『まごころ』を行動や言葉で具現化していたなと思っています。

私は、宮中生徒会のスローガンが『まごころ』と決まった時から、『まごころ』の具体像を探していました。

卒業シーズン。レミオロメンの『3月9日』（作詞作曲 藤巻亮太 2004）という楽曲をよく耳にし、歌詞を目にすることがあります。毎年この時期に聞かれる曲です。もともとは、結婚式のために作られた曲ですが、ドラマの中で、卒業間近の主人公への応援歌として使われたことから、卒業ソングの定番となったようです。

学校で勤務することになった今年、私もその情景が、解像度高く目に浮かぶ歌詞であることに、改めて気づかされました。そして、本校の生徒会スローガン『まごころ』についても、「もしかして、こういうことかな…」と思うようになりました。



歌詞の中に「瞳を閉じればあなたが まぶたの裏にいて…」という一節があります。不安や緊張感に包まれ、ふと目を閉じた時、まぶたの裏に思い描ける、思い描いてしまう人がいること。その人は、『まごころ』を感じた人なのではないか。仲間かもしれません。家族の誰かかもしれません。一人ではないのです。その人に、どんなに励まされることか、背中を押してもらえることか…。節目であれば、なおさらです。とても幸せなことです。

同時に、宮中生は、だれかのまぶたの裏にいてような人になっているのではないかとともに思いました。だれかの、そういう人になれるように、今、生徒が持っている『まごころ』を、これからも大事にしてほしい。

そして、私もそうありたい…とこの曲と宮中生の姿から強く思う、そういう1年でした。



さて、月曜日は卒業証書授与式です。宮中生の『まごころ』であふれる、次の1年につながる1日にしたいと思います。宮中生204名の前途に大きな期待を寄せて…。



※卒業生、保護者の皆様をお迎えする生徒の書→

第2回学校運営協議会を開催しました。

本年度は、夏季の記録的な猛暑や「クマ騒動」といった、予測困難な状況に直面しました。さらに年度末にはインフルエンザの流行による学級閉鎖も実施しました。これらの困難な状況下においても、生徒が落ち着いた学校生活を過ごすことができた要因を分析し、学校運営協議会委員の皆様とともに、次年度の学校経営へと繋げる有意義な対話の時間を持つことができました。

【・本年度の取組みの現状 ◇次年度の方向性】

- ・ 次年度の生徒数は200名（1学年63名、2学年68名、3学年69名）と、減少傾向にある。
 - ・ 特別支援教育へのニーズが増え、「自閉症・情緒学級」が復活し、計10クラス編成となる。
 - ・ 生徒・保護者アンケートによれば、学校満足度および自己肯定感が9割を超え、高い水準にある。
 - ・ 猛暑やクマ騒動といった不安定な外部環境下であっても、学校が「心理的安全性」を担保される場所として機能した。
- ◇ 学校が「安心できる場所」として定着した今、次なる目標は、生徒が自ら思考し、学びを調整する「内発的動機づけ」を高める取組が必要であると考えていること。
- ◇ これまで教職員が丁寧に手厚く指導支援してきたスタイルから、生徒自身が学習をコントロールし、主体的に学びに取り組む「自走型」の指導・支援へと、その在り方を模索すること。
- ◇ 特別支援教育の充実に向けた、組織的対応の体制を整えること。
- ◇ 部活動改革・部活動の地域展開、入試制度改革、教職員の働き方改革等へ適切に対応すること。

◎ 委員の皆様からは、以下のような評価と将来への提言等が寄せられました。

- ・ 体育祭での熱烈な応援や生徒の涙を挙げ、行事を通じた体験が、生徒の「レジリエンス（折れない心）」と「絆」を育む極めて重要な教育機会であると高く評価いただきました。
- ・ 「昔のような荒れた生徒の姿は皆無であり、挨拶の励行など、現在の落ち着きはすばらしい改善である」と地域からの評価をについて紹介していただくとともに、市内小中学校の再編統合に関する情報の透明性のご要望がありました。
- ・ 部活動の地域展開に関わって、休日との分離における責任の所在、特に平日（学校）と休日（地域）の指導の連続性をどう確保するか、運営の具体的な境界線についてご意見をいただきました。
- ・ 地域行事で生徒が「二人三脚」のやり方を知らなかったことを話題として、これを「体験・経験の不足や地域の伝統・文化を継承する機会」と捉え、学校と連携した体験の重要性を共有しました。
- ・ 図書ボランティアの視点から「授業中に向かう静寂と集中力」の報告があり、これを支える教職員組織の堅実な運営を高く評価いただきました。
- ・ 特別支援ニーズの急増に対し、多様な対応の充実に向け、「南陽市学校運営協議会規則」に基づき、人員配置に関する意見表明も考えていくべきではないかというご意見がありました。
- ・ 少子化という激流の中で、学校の活気を維持し、子供たちの未来を支えることは、学校と地域の「共同責任」であると総括いただきました。



今回、提案させていただいた「令和8年度 学校運営方針」および「教育課程編成案」は、出席委員全員の賛同を得て、ご承認いただきました。ありがとうございました。



宮内中学校公式 HP (<https://miyatyu.sakura.ne.jp>) 公開中!

日常の学校生活の様子を紹介しております。どうぞお立ち寄りください。

宮中生の活躍は、で検索  ポチっと♪

← 二次元コードからもリンクします。



本年度も大変お世話になりました。令和8年度もよろしく願っています。